

国に心を向ける

私たちは普段、国の存在を意識することは少ないようです。しかし、国が安定し秩序が保たれているからこそ、私たちの生活も保障されるのです。新年にあたり、国について考えてみましょう。



年の初めにあたって

平成十七年、新しい年を迎えました。

玄関に門松を飾り、

日の丸を掲げ

ている家庭を

見ると、近ご

ろでは、珍し

い風景と感じら

れます。

さて、私たち

が普段あまり意識

しない国旗や国歌

ですが、国際的な催

しが開催されるたび

に注目が集まり再確

認させられることがあ



ります。特に昨年は、ギリシアで

オリンピックが開催され、日の丸

を振って応援する日本人観客の

姿や、君が代が流れる表彰式の

様子がテレビで放映されました。

また、サッカーの国際試

合でも、必ず国旗が掲揚さ

れ、国歌が斉唱されます。

今月号では、年の初めに

あたり、国旗・国歌の意味

や国の恩恵について考え

てみたいと思います。

お相撲の

旗と歌？



岡山さん（38歳）は、大学時代の同級生である池田さんの家にお年始ねんしを持って訪ねました。二人は共に柔道部じゆうどうぶに所属した親友です。新年の挨拶あいさつを済ませると、話は自然と昨年、大きな盛り上がりを見せたアテネオリンピックの話題になりました。

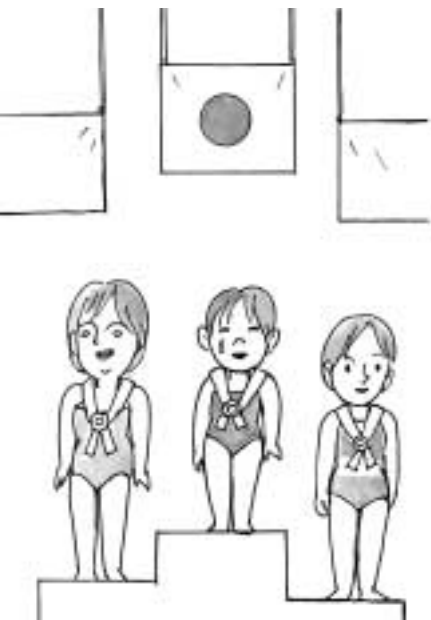
「それにしても、アテネの柔道はすごかったな」と池田さん。

「金メダルが八個。久しぶりに日本柔道の強さを見せてもらって、本当に興奮こうふんしたよ。あの柔道の活躍かつやくで、それ以降の日

本のメダルラッシュに勢いがついたからな。選手はよくがんばったよ。日本選手が優勝して、日の丸が揚がり、君が代きみが代が流れると感激したよ」

岡山さんもそう言っいて嬉しうれそうです。

「そうだね。『表彰台しょうじょうだいに上がって日の丸の国旗を見たら、金メダルを取ったんだなって……』と言っいて、嬉しうれ涙なみだを流す水泳の女子選手もいて、テレビで見ている自分も思わずもらい泣きなみだをしてしまったよ。





でもね。ビデオに録画した表彰式の様子を見ていた息子が、君が代が流れたら、
「あれ、なんでオリンピックにお相撲の旗と歌が流れているの？」って声を上げたんだけ

「……お相撲の旗と歌？ 何それ」

「国旗と国歌のことなんだよ。おやじが

相撲好きでね。よく息子といっしょに見ているんだ。そうしたら、いつの間にか息子も相撲好きになつてね。土俵の真上に掲げてある日の丸と千秋楽の表彰式に流れる君が代が、お相撲の旗と歌」と思い込んでいたんだよ

「まだ小学校一年生だろ。高学年に上がったたら自然と理解できるようになるんじゃないのかな……。でも、よく考えると、俺たちもオリンピックやサッカーの国際試合以外では、あまり日本の国旗や国歌を意識しないよなあ」と岡山さん。「確かに、そう言われると意識してないな……」

岡山さんと池田さんは、これまで国旗と国歌についてあまり深く考えたことがないことに気づいたのでした。

国旗・国歌は尊重される

日本青少年研究所が発表した「国旗・国歌に対する意識と態度調査——日米高校生比較」（平成元年九月）があります。

「あなたは学校の行事や何かの式典で、国旗が掲揚されたり、国歌が吹奏すうそうされる時、起立して威儀いぎを正しますか」の質問に対して、起立する日本の高校生の割合は、二五・六％であり、米国は九七・二％と発表されました。外国の国旗・国歌に対して起立する高校生の割合は、日本一七・三％、米国九三・四％という結果が出ています（ただし、米国では、起立し威儀を正すのは当然と考えられてい

て、日本と同じ質問をすることは不可能で、「尊重して起立する」「尊重しないで起立する」「起立しない」の三つの焦点から質問された）。



今の日本の若者は国旗と国歌に日常的に接する機会が少なく、諸外国の若者に比べて、国旗と国歌に対する意識が希薄であると言われています。そのせいか、国旗掲揚や国歌吹奏に際してのマナーや常識を知らなかったばかりに、海外でトラブルに遭った日本の青年もいます。

各国から青年が参加し、世界各地を船で訪問する「青年の船」での出来事です。

毎日、船上では朝礼が行われ、参加者の国旗が掲揚されます。ある日のことです。当番の日本人青年が、ある国の国旗を上下逆にして揚げてしまったのです。それに気づいたその国の青年たちが憤慨し、猛烈に抗議しました。船上は気まずい雰囲気になりました。しかし、日本の青年たちは、なぜ相手がそこまで怒るの

かを理解できずに、たいへん戸惑ったといっています。

また、タイでは、国歌が朝と夕方に公共施設、公園、広場、テレビやラジオで流されます。国旗掲揚台があるところでは、朝の国歌斉唱時に国旗が掲揚され、夕方の斉唱時に降ろされます。国歌が流れてきているとき、直立不動の姿勢をとる必要があります、この姿勢をとらなかつた場合、罰せられることがあるそうです。映画館でも上映が始まる前に、スクリーンに国王陛下が映し出されるとともに国歌が流されますが、ある日本人学生二人が自分たちには関係ないと思つて起立しなかつたために、留置場へ入れられるという出来事がありました。

ケニアでも、国旗降納の合図である笛

の音が鳴^なっているにもかかわらず、起立
しないでそのまま仕事を続けた日本の青



年が、ライフル銃^{じゆう}を突きつけられて役場
に連行されたことが実際にありました。
国旗が国家のシンボル（象徴）である
と、多くの日本人は知っていますが、そ
れを常に尊重しなければならぬという
意識は低いようです。

世界各国にはそれぞれ独自の文化や歴
史、宗教があります。それらが国旗のデ
ザインや色彩によって表されて、国家の
特性を示しています。各国の国旗や国歌
を尊重することは、それぞれの国の文化
や歴史に敬意を表すことにつながるの
です。国旗や国歌をないがしろにすること
は、その国の人々や歴史、伝統・文化を
もないがしろにすることと同じです。こ
の大切なことを、日本人は若い世代に伝
える努力^{おとた}を怠^{おそ}ってきたようです。

アメリカで感じた 日の丸に対する思い

アメリカ・ジョージア州の大学に留学していた山本さん（28歳）の体験を紹介しましょう。

留学当初、慣れない生活環境に悩んだ山本さんは、
「もう日本に帰ろう……」

という思いに何度もかられました。そんな山本さんを心配したアメリカの友人が、「気晴らしに、ストーンマウンテン公園のレーザーショーに行こう」と誘ってくれました。

夜が近づくにつれ、ストーンマウンテン（地上に露出している世界最大級の一枚

岩の花崗岩）の前に人が集まってきました。観客は芝生の上で思い思いの格好をして開始を待っています。ショーが始まると、レーザー光線で一枚岩に絵が描き出されるたびに歓声が起こります。山本さんもその鮮やかさに目を奪われました。

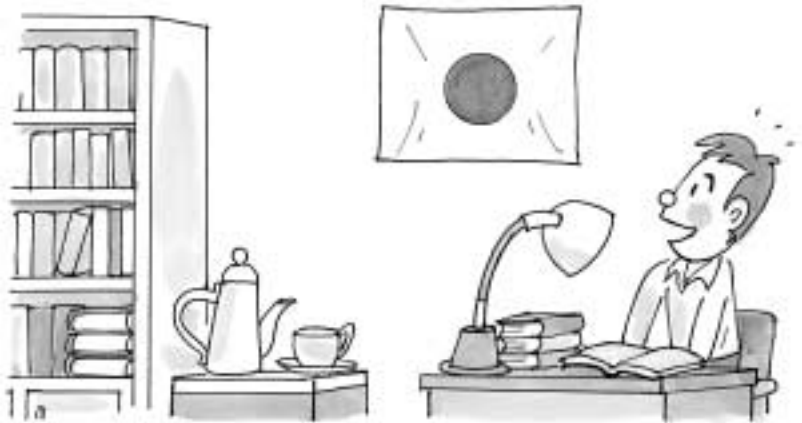
ショーが終盤にさしかかり、アメリカの国歌が流れ始めると、雰囲気が一変しました。それまで芝生の上で寝転んでいた人たちが子どもたちがその場ですくと立ち上がり、胸に手を当てて一枚岩を眺めています。国歌を口ずさんでいる人



もいません。山本さんは何が起きたのか分かりませんでした。友人に促うながされて立ち上がりました。一枚岩を見ると、アメリカの国旗である星条旗せいじょうきが映し出されていました。

山本さんは、アメリカ人が自国の国旗と国歌に並々ならぬ敬愛けいあいの情を持つていることを強く感じました。また、そうしなければ人々が一つの国民としてまとまらないのだということを知りました。

国旗・国歌に敬意を表するアメリカ人の姿に感銘かめいした山本さんは、日の丸を日本にいる両親から送ってもらい、机の前の壁に貼はりつけました。そして、勉強中にくじけそうになったときや弱気になったとき、日の丸を眺めて自分に喝かつを入れたといいます。日の丸を見ていると、そ



信用 され ている 日本人



の向こう側に両親や今までお世話になった人たちの姿が浮かんでくるような気がしたのでした。

数年後、アメリカの大学を卒業し、日本に帰国した山本さんは、テレビで日の丸の映像や君が代が流れると、自然と姿勢を正すようになっていました。ストーリーマウンテンで見たアメリカの人々の姿

と、異国の地で自分を励^持ましてくれた日の丸に対する感謝の気持ち^持が鮮やかによみがえってくるのです。

「私は、このアメリカでの体験から、日の丸や君が代を通して、日本人である自分を、そして、日本という国を強く意識するようになりました」と、山本さんは言います。

私たちは、国外に出かけたとき、自分が日本人であることを意識し、実感します。

十数年前にアメリカとメキシコを観光旅行した田中さん夫婦の体験です。

日本からアメリカに入国して、陸路を使って出国し、夫婦二人だけでメキシコに入国しました。アメリカからメキシコ



に入国するのは簡単で入国審査らしきものはほとんどありませんでした。

翌日、メキシコでの観光を終えて、再びアメリカに入国しようとしてきました。ところが、メキシコからアメリカに入国しようとする人々が長蛇ちようだの列を作り、通関に時間がかかっています。田中さんが列の前方を見てみると、入国する人々は入国係官からいろいろと調べられて質問されているようでした。片言かたことの英語しか話すことができない田中さんはその光景を見て不安になってきました。

田中さん夫婦の番になりました。不安な表情でパスポートを差し出すと、係官は、「ジャパニーズ？」と言っただけでそれ以上何も質問しないで、簡単な荷物検査だけで通してくれました。

「イエス」とだけ言った田中さんは少し拍子抜けしました。しかし、日本のパスポートを持っていることで、自分たちが日本人として国際的に信用されていることを感じたのでした。

パスポートには、「日本国民である本旅券の所持人を通路故障なく旅行させ、同人に必要な保護扶助を与えられるよう、関係の諸官に要請する。日本国外務大臣」と書かれています。海外に出る日本人は、日本政府が発行したパスポートによって日本人としての身分と安全を保証されているのです。日本のパスポートは世界各国で高い信用度を誇っているといえるでしょう。



国がある幸せとその恩恵

現在、麗澤大学（千葉県柏市）の教授である竹原茂さんは、旧名をウドム・ラタ



ナヴォンさんと言います。一九四三年（昭和十八年）、ラオスに生まれました。

第二次世界大戦後、急速な成長を遂げた日本経済を学ぶため、昭和四十九年、日本に留学しました。

ところが、翌年、留学中に祖国ラオスで革命が勃発し、共産党政権が樹立されました。ラオス王国政府内の公務員でもあったラタナヴォンさんは帰国を断念し、そのまま難民となって日本に亡命したのでした。

その後、難民としての数多くの苦難を味わったラタナヴォンさんは、悩んだ

末、昭和五十八年に日本国籍こくせきを取得し、竹原茂さんになりました。

そのような体験を持つ竹原さんは著書ちよしよの中で国の大切さについて次のように語っています。

「国家が崩壊ほうかいすると、国籍もなくなり、住むべき場所も失います。国籍がないということとは、戸籍登録こせきとうろくさえ受け付けてもられないということの意味なのです。渡航証明書とこうをもらって外国で生活をしていても、国の信用が落ちているので、その国の国民というだけで信頼してくれず、就職するときにも条件が不利になつてしまいます。国籍がなければ、いくら人柄がよくても人は信頼してくれないのです。(中略)

祖国を失つてみて、私は国家の恩恵を

いつそう強く感じるようになりました。

自分の知識を使って社会貢献すること
で、祖国に対して恩返しをしたいのです
が、難民の私には実行する機会がないの
です。難民としての立場はあまりにも制
約が多く、やりたいことが十分にできま
せんでした」(『ラオス・日本、アジアに生き
る』麗澤大学出版会)

私たちは、普段、日本という国の存在
をそれほど意識せずに生活しています
が、日本という国が安定した社会秩序ちやうじよを
保ち、平和であるからこそ、安心して幸
せな生活を送ることができなのです。竹
原さんの体験は、私たちに自分たちの国
が存在することのありがたさを教えてく
れます。

※

※

国はそれぞれに歴史や文化を持

ち、日本もまた、長い歴史と

独自の文化を持つていま

す。その歴史の中で、

数え切れない多くの先

人先輩が、よりよい

国づくりのために力

を尽くし、犠牲を

払ってきました。そ

の大きな努力に

よって、現在の日本

の繁栄と平和が築か

れているのです。

新年にあたり、日本に

ついて正しく知り、日本と

いう国に心を向けてみてはいか

がでしょうか。

